

2022年9月

歴史 — No. 25

けんぱくものしりシート

いっ さい きょう み かえし え

一切経見返絵



へいあん じ だいこう き ひらいずみ
 平安時代後期、平泉を
 ちゅうしん おうごんぶん か きず あ
 中心に黄金文化を築き上
 おうしゅうふじ わらし かず おお
 げた奥州藤原氏は、数多
 ぶん か ざい のこ
 くの文化財を残しました。
 ひだり え こん し きん じ いっさい
 左の絵は、「紺紙金字一切
 きょう ひょうしゅうら
 経」の表紙裏にえがかれ
 み かえし え
 た見返絵です。

いっさいきょう おうしゅうふじ
 この一切経は、奥州藤
 わらし ぶつきょう すべ おし
 原氏が仏経の全ての教え
 きん ぎん つか か うつ
 を金や銀を使って書き写
 きょう まきもの
 した、お経の巻物です。



これは、『如来放光図』です。大きな仏様の白毫(★裏面参照)から出た光が小屋に住
 ろうじん む じるし じょうど ほとけ す らくえん みちび ぼめん いっさいきょう つく じ だい
 む老人に向けられ(○印)、浄土(仏の住む楽園)へと導く場面です。一切経が作られた時代
 には、仏教をひらいたお釈迦様の教えの力が弱まったため世の中が乱れていると考える
 まっぼうし そう ひろ ひとひと しご じょうど ついて いく ほとけさま すく もと
 「末法思想」が広がり、人々は死後、浄土に連れて行ってくれる仏様に救いを求めるようにな
 りました。この絵には、その時代を生きた奥州藤原氏の浄土への思いがこめられています。

あ かん い じょう いっさいきょう こくほう してい
 合わせると8,000巻以上にもなる一切経は、国宝に指定されています。

なか み かえし え へいあん じ だい ぶつきょうかい が だいひょう き ちょう しりょう
 中の見返絵は、平安時代にえがかれた仏教絵画を代表する貴重な資料であ
 り、その当時の平泉文化が豊かで高い水準であったことが分かる資料です。

みかえしえ どうじょう ず ほとけ すぐ とく
見返絵には、よく登場する図がらや、仏の優れた特ちょうがえがかれています。

あみださんぞん せいしほさつ あみだにょらい かのんぼさつ
＜阿弥陀三尊＞ 勢至菩薩・阿弥陀如来・観音菩薩

にくけい も あ あたま
【肉髻】盛り上がった頭
は、深い智慧を表しま
す。【螺髪】右巻きの髪
の毛は、さとり(◎)を開
いたあかしです。



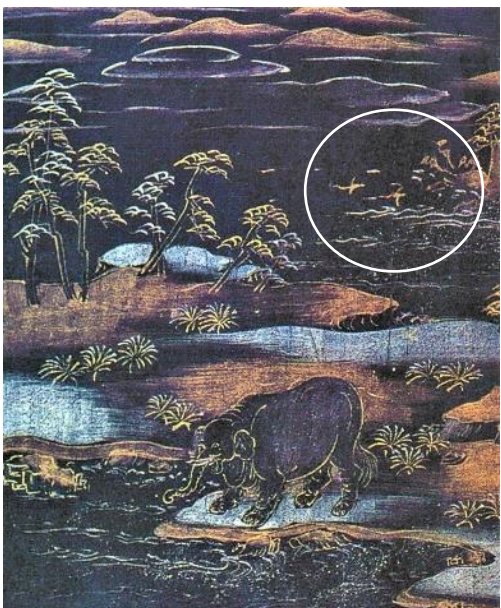
ほうじゆ しちほう おうごん ね
【宝樹】七宝(黄金の根・
真珠の実など)でできた樹
木。仏様が話す時に現れ
る美しいかざりです。

さんげ はな ち
【散華】花をまき散らし
香りで悪い心を追いはら
い、場を清めます。

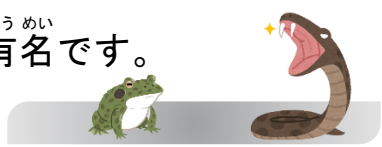
びやくごう ひたい ま なか
【白毫(★)】額の真ん中
にある右巻きの白い毛で、
伸ばすと4.5mもあり、光
を放ち世界を照らします。

れんげざ どろのなか はな
【蓮華座】どろの中に花
をさかせるハスは、さと
り(◎)の象ちょうです。

さとり(◎) 心の迷いが
なくなり、物事の本当の
意味を知ること



え ないよう ほとけさま おし と
絵の内容は、仏様が教えを説いているも
ののほか、風景画的なものまで様々です。
ひだり え みずのみぞう ず きしべ
左の絵は『水呑象図』です。岸边でうれし
そうに水を飲もうとする象の後ろでは、水
どり 鳥がはばたき(○印)、生き物と大地に仏
様のやさしい気持ちが行きわたっている
様子です。その他にも、地獄絵図をえがいた
『三悪道図』が有名です。



参考 『岩手の仏画Ⅰ』 岩手県立博物館 1998年 / 『これなあに? 歴史 - 44一切経見返絵』 岩手県立博物館 2002年

「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時
のもので、最新情報ではございませんので、
あらかじめご了承ください。
「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆し
ております。



モッチャン



岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>